



FUJISOFT

2017年10月26日
富士ソフト株式会社



「第29回全日本ロボット相撲全国大会」、 「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2017」開催のお知らせ ～ロボット相撲の日本一“第29代横綱”と世界一の横綱が決定します！～

富士ソフト株式会社(本社:神奈川県横浜市、代表取締役 社長執行役員:坂下 智保)は、「第29回全日本ロボット相撲全国大会」および第4回世界大会「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2017」を12月17日(日)に国技館(東京都墨田区)にて開催いたしますのでお知らせします。

「全日本ロボット相撲全国大会」は、富士ソフトが主催する「全日本ロボット相撲大会」の「全日本の部」の全国大会です。29回目を迎える今大会は、全国9カ所で行われた地区大会の「全日本の部」に参加した1,034台のロボットの中から、見事全国大会に勝ち進んだ64台が国技館に集結し、“第29代横綱”を目指してトーナメント方式で競い合います。優勝者には文部科学大臣杯と文部科学大臣賞が授与されます。



＜昨年度「全日本ロボット相撲全国大会」の様相＞

「全日本ロボット相撲全国大会」の“第29代横綱”、準優勝力士と海外で開催されたロボット相撲大会の上位入賞者が世界一をかけて挑むのが「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT」。

第4回大会の今回は、海外で開催されたロボット相撲大会のうち38の公認大会の優勝者と開催国代表らが出場し、日本を含めた31カ国の相撲ロボットが世界一の座を巡って熱い戦いを繰り広げます。

当社が考案したロボット相撲大会は海を渡り、世界各国で様々なロボット相撲大会が開催されるようになりました。海外でも、相撲ロボットの制作はロボットテクノロジーの習得に適していると高く評価され、大学生を中心とした参加者が出場しています。現在、海外で開催されているロボット相撲大会の総出場台数はおよそ年間1,000台に上ります。

【開催概要】

■開催日 2017年12月17日(日)

■開催場所 国技館 (東京都墨田区横綱 1-3-28)

■プログラム 第一部 第29回全日本ロボット相撲全国大会
(10:00～開会式、10:30～試合開始、12:40～表彰式)

第二部 INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2017
(13:30～開会式、14:00～試合開始、16:30～表彰式)

※当日の参加台数や試合状況により、時間が早まる場合があります。

※入場無料。どなたでも観戦いただけます。(HPよりフライヤーを印刷しご持参ください)

全日本ロボット相撲大会 HP URL <http://www.fsi.co.jp/sumo/>



FUJISOFT

【全日本ロボット相撲全国大会の概要】

「全日本ロボット相撲大会」は、ロボット作りを通して『ものづくり』の楽しさを知ってもらえる場を提供することを目的に 1990 年より開催し、今回で 29 回目を迎える国内最大規模のロボット競技大会です。

参加者が自作したロボットを力士に見立て、技術とアイデアで相手を土俵から押し出す競技で、参加資格に制限のない「全日本の部」と地区大会の開催地域の高校生だけが参加できる「高校生の部」で構成され、それぞれ自動的に動くプログラムを内蔵した「自立型」と、ラジコン操縦で動かす「ラジコン型」の 2 種類のロボットが出場します。「全日本ロボット相撲全国大会」は、富士ソフトが主催する「全日本ロボット相撲大会」の「全日本の部」の全国大会です。



＜昨年度「全日本ロボット相撲全国大会」の様相＞

■**出場台数** 全国 9 カ所で開催した地区大会「全日本の部」の上位入賞 64 台（自立型 32 台、ラジコン型 32 台）

■**表彰** 優勝：文部科学大臣杯／文部科学大臣賞／賞金 100 万円
準優勝：賞金 50 万円
第 3 位：賞金 30 万円
第 4 位：賞金 10 万円

■**主催** 富士ソフト株式会社

■**後援** 文部科学省、公益社団法人全国工業高等学校長協会、一般社団法人日本ロボット工業会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人電気学会

■**大会委員**

委員長	富士ソフト株式会社	代表取締役 会長執行役員	野澤 宏
副委員長	富士ソフト株式会社	ロボット相撲大会事務局長	金井 健
委員	早稲田大学	環境・エネルギー研究科 教授	永田 勝也
〃	株式会社人工知能ロボット研究所	代表取締役	西村 輝一
〃	株式会社移動ロボット研究所	代表取締役	小柳 栄次
〃	ものづくり大学	製造学科 客員教授	平塚 剛一
〃	富士ソフト企画株式会社	代表取締役社長	須藤 勝
〃	公益社団法人全国工業高等学校長協会	事務局長	山田 勝彦
〃	公益社団法人全国工業高等学校長協会	事務局次長	石井 末勝
〃	富士ソフト株式会社	取締役	猪原 幸裕

■**目的**

生徒・学生ならびに社会人がロボット作りを通して技術の基礎・基本を習得し、研究意欲の向上と創造性発揮の場を提供し『ものづくり』の楽しさを知ることを目的とする。

■**試合規則について**

直径 154cm の鉄製の土俵上で“ロボット力士”が勝負に挑む。土俵から落ちたら負けの三本勝負。

部門：「全日本の部」は参加資格制限なし

「高校生の部」は公益社団法人全国工業高等学校長協会加盟校の高校生

種類：自動的に動くコンピュータプログラム内蔵「自立型」と、ラジコン操縦で動かす「ラジコン型」の 2 種類

規格：幅・奥行き 20cm 以内／高さ自由／重さ 3kg 以内

■**地区大会出場台数**

1,291 台（全日本の部 1,034 台、高校生の部 257 台）



FUJISOFT

【INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT の概要】

「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT」は今回で4回目の開催となるロボット相撲の世界大会です。1998年に、全日本ロボット相撲大会の第10回記念として全国大会入賞者をアメリカで開催された大会に招待したことが、ロボット相撲の世界展開の始まりです。アメリカ遠征は2003年まで続けられました。2008年の第20回記念大会には海外選手を招待し、全日本ロボット相撲全国大会に海外選手が出場する形で国際化を再開しました。

正式な世界大会としては、2013年に世界大会のプレ大会を開催、翌2014年に第1回目の世界大会となる「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2014」を開催しました。

「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT」では、「全日本ロボット相撲全国大会」の“横綱”と準優勝力士、海外で開催されたロボット相撲大会(全日本ロボット相撲大会公認)の優勝者らが世界一をかけて挑みます。



〈昨年度「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT 2016」の様相〉

- **出場台数** 自立型:75台、ラジコン型:33台 合計108台(予定)
※第29回全日本ロボット相撲全国大会の優勝者、準優勝者を含む
- **出場者** 海外で開催された38のロボット相撲大会の優勝者と開催国代表選手らが出場します。
- **表彰** 優勝:賞金20万円
準優勝:賞金15万円
第3位:賞金10万円
第4位:賞金7万円
- **主催** 富士ソフト株式会社
- **後援** 一般社団法人日本ロボット工業会、一般社団法人日本ロボット学会、
一般社団法人日本機械学会、一般社団法人電気学会

以上

この件に関するお問い合わせ

富士ソフト株式会社
コーポレートコミュニケーション部 担当/蓮見・久下
〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3
TEL:050-3000-2735
FAX:03-5209-6085
E-MAIL:mkoho@fsi.co.jp